

煙巖山鳳来寺勝岳院 三州設楽群門谷村の山頭にあり

天台、真言の二派に分る

○本尊薬師仏 長さ一寸八分。開基利修仙人、一刀三礼<sup>①</sup>の作。日光、月光、十二神将、四大天王を安ず。秘仏。

○神祖御宮 諸堂の上方にあり。御宮殿壯麗微妙なり  
別当職天台学頭松高院。

拾遺集

ひのもとにさける桜の色みれば人の国にもあらしとぞ

おもふ 兼盛 弟

紀氏六帖

いにしへの神の御代よりあひけらし今の心もそこ

忘れず 家持

送爽鳩子方之三河

憶君奉使向三河 路入函関滄海波

物茂卿

杜若水寒芳草歇 芙蓉峰霽白雲多

吹笙幾訪鳳来寺 置酒誰聴魚麗歌

聞説登臨名蹟徧 嵩山少室定如何<sup>②</sup>

○鎮守三社権現 中央、熊野権現、左、山王地主権現、右、白山権現

利修仙人の弟子心月坊裕仙観請<sup>③</sup>す

○六所御法神 利修仙人百済国より帰朝の時、六人の御法神、

香華を捧げて随従したまう。茲によつて勧請す

○開基利修仙人堂 この堂は飛驒の匠が造れるという。飛驒の匠というのは、

一人のみに限れる名にもあらず。

○常行堂 本尊阿弥陀仏。この堂は、藤九郎盛長、三河国七御堂

造立のその一堂といえり

○三層塔 源頼朝卿の建立。梶原景時奉行のよしい伝えり

常行堂とこの塔は、昔の姿にて、造替なしという

○鏡堂 護摩堂の傍にあり。薬師の東方大円鏡をもつて、諸人の願により、

鏡に万像を模し、利益を施したまう誓願あるゆえ、薬師尊へ鏡を奉り

諸願を祈るなり。これ当山 ○八幡宮 ○伊勢両太神宮 ○弁財天祠 ○天神祠

鏡堂の由縁なり

○毘沙門堂 ○一王子 ○二王子 ○荒神祠 ○弘法大師堂 ○元三大師堂

○鐘楼 ○楼門 諸堂の次第図画に見えたり。楼門の額は光明皇后の御筆にして、

「鳳来寺」と書す。左右に金剛力士たつ

○名号題目石 楼門の傍にあり。弥陀の名号と法華題目を鐫じ、慶安四年、

篠原氏建つる。これを弘法大師の投筆と称じて、詣人尊信す

○八王子祠 麓の門谷町にあり。妙法灌 松高院の

生土神とす 下にあり

○奥院 本堂より九町ばかり山奥にあり ○六本杉 奥院の路傍

白山権現、不動尊を安ず。 にあり

○煙巖山 本堂の西に当たれり。こゝは利修仙人護摩を修せらる。煙、常に

巖上に立ち昇るゆえに名とす。開基の山居の地なれば、当山の山号とせり

○勝岳院 本堂の乾に当たる。利修仙人こゝに住して簫を籟きたまうゆえ、簫学

仙人という名あり。また勝れたる岳なればとて院号とせり。この岳にて

仙人の作られし不動尊、又役行者の作りたまう不動尊もあり

一字に安置せり。前の岩面に八大童子の像あり

○瑠璃山 奥院より乾に当たれり。利修仙人

瑠璃の壺を埋みしところという。

○隠し水 西谷にあり。利修仙人の加持水なり。旱天霖雨<sup>④</sup>に増減なし

早期繁茂の中にあれば隠し水という

○高座石 ○巫女石 ともに本堂より乾の方にあり。利修仙人、山神の招請

により、岩上に坐して法華、華嚴の法意を説く。その時八人の巫女天降りて聴聞す。仙人説法したまうところを高座石といい、巫女影向<sup>⑤</sup>し歎喜せしところを巫女石という

○尼行道 西谷にあり。むかし浄行尼という人、利修仙人を尋ね来るとき、

仙人思うよう、女人は汚穢の身なり、近づくべきにあらずとて隠れたまえり。浄行尼怪しみ、岩頭に昇りて一七日遠見すれども、仙人見えたまわざれば、怒りて岩を谷へ投げしかば、たちまち碎けて落ち散りたり。その谷を尼谷といい、そのくだけたる跡を尼の行道という。

○行者帰 当山の峰より東の方、大野へ行く道なり。役行者登山のとき、岩路嶮しく登りがたければ、本道より至り、利修仙人に逢いたまう。故にこの名あり。

○猿橋 当山の南にあり。むかし勅使公宣卿登山のとき、溪川洪水して

橋おちたり。忽然<sup>⑥</sup>として猿数百出でて、手足を組み合い橋となし、勅使を渡せしゆえこの名あり。また今の橋、算木のごとくなるゆえに、算橋ともいう。

○篠谷 南の方に当たる。むかし浄瑠璃姫、当山の本尊薬師仏を尊信し、

この篠谷に棲んで日毎に詣し、示す示現を蒙り、十二段の浄瑠璃を語り始むる。

○山伏堂 ○馬背 ○牛鼻 ともに当山にあり。

いずれも嶮路<sup>⑦</sup>なり。

それ当山は、推古天皇の勅願にして、利修仙人の開創なり。その頃、上宮太子<sup>⑧</sup>

摂政したまうとき、三河国司奏<sup>⑨</sup>していわく、「桐生山に桐樹あり。相伝う神代よりの霊樹なり。その高さ四十九丈、囲り三十九尋<sup>⑩</sup>。虚洞あつて大室のごとし。龍その虚洞に棲む。その西の枝に異鳥棲めり。その丈八咫<sup>⑪</sup>、尾の尺丈余。全身五彩金翠にして、啼く声嘒々<sup>⑫</sup>たり。人いまだにその名を知らず。一日三尾羽を落とす。故にこれを

献ず。またその献中に仏像あり。金石にあらず、土木に非ず、手指に宝壺を持して金光あり」と奉す。太子これを聞こし召して、「これは鳳凰の尾なり。この鳥文徳を好む。今出ずるは、蓋し階下神皇の紀を闢き、儒仏の道を弘むるの前表なり。かの仏像は、瑠璃光仏なり。後代竜去つて精舎となる」とぞ。同帝の御宇、詔を蒙りて、利修仙人当山七本栢を

一株伐つて、薬師、日光、月光、十二神将、四天王を彫刻し、巖上に安置す。今の本尊是なり。皇太子驪<sup>⑬</sup>に騎つて空中をかけたまうに、蹄のあたるところあり。これ三河国設楽の峰と

「太子伝」にあり。故に峰の薬師と称す。その後、文武天皇御脳<sup>⑭</sup>のとき、草鹿砥公宣卿を勅使として仙人を召したまう。利修仙再三辞したまえども、勅命遁れがたく、参内ありて加持を奉りければ、御脳たちまち平愈ならせたまう。その時天皇、仙人の意願を勅問ありけるに、答えていわく、「烟霞<sup>⑮</sup>を栖とし、青苔を衣とし、松実を服して、名利を親しまざれば、身にとりての願心なし。国家安泰の御禱りとして、仏堂を建てて尊影

を安置せんこと、これ本来の願望なり」と奉しければ叡感ありて、大宝三年造立し、その後、光明皇后の御筆にて「鳳来寺」の額を賜う。また青赤黒の三鬼ありて、常に利修仙人に随従せり。仙人入定<sup>⑬</sup>の時、この三鬼の首を薬師堂の下に埋み、当山の守護神とす。

元和年中、本堂炎上の後、造立の折柄、石櫃よりこれを出し、当山の衆僧初めて三鬼首を見けるとかや。また元のごとく封じて、蔵め埋みしという。宿昔利修仙の許へ、勅使公宣卿登山の折から、本宮ガ岳へ登りたまう。そのとき老翁あらわれ、導きをして勅使を当山へ送りたまう。公宣卿詠歌に、

霧や海山へのすがたは島に似て浪かときけば松風の音

本宮ガ岳の神伝にも、このことを記すなり。毎正月三日、十四日に万歳楽を諷い、獅子舞、田楽、修正会の節棒を振るも、この三鬼の由縁という。そもそも開山利修仙人は、もと山城国二葉里、加茂間賀都岐麻呂の子なり。「欽明天皇紀」三十一庚寅四月七日に誕生し、利修童子と号く。成長の後、忽然としてこの山嶺に來たり、夢中に五台山の長秋仙人に謁し、千歳の寿を授かるがゆえに、その峰を千寿峰と号す。その後万寿を

保ちけるより、万寿坂というところ今にあり。陽成帝元慶二年、利修仙人三百九歳のとき、勝岳の深窟に入定し、当来慈氏の出世を俟つといえり。巖窟に池水あり。今に時々振鈴の音幽かに聞こゆるという。これ武陵の人桃花源に遊ぶに似たり。まず江府の輩こゝに詣するは、多く秋葉山より登りて、山路八里を歴てここに至る。京師より詣するには、御油の駅の端より入りて当山門前まで八里余なり御油 上宿 八幡

野口 諏訪 本野

篠田 大木（これまで二里半四町）。長山 北岡 柿木 東上 中村 禰古屋 権現

野田 新城（これまで二里半一六町。この地都会のところ、商人多し）。宗高、志多羅、大壺、岩広、河路、藤波 新聞 下々 清井田 大見 錢亀、

滝川（豊川の上なり。 追分、門谷（これまで三里。このところ。

わたしあり）

鳳来寺の麓にて、旅舎多し）、鳳来寺門前に門谷町とて

能き泊りなり。それより橋をわたり、楼門に入りて、石階を登ることすべて九町なり一町ごとに石標あり。左右には老杉蓊鬱<sup>⑭</sup>として、旭の出づること遅々たり。階段の両側には、僧房連なりて、天台、真言の二流あり。一念三千の諸法を顕し、胎金両部の羯摩会を具し、次第に登れば、宝閣、金塔、神窟、仏壘、玲瓏として壯観たり。

真に王維が仏を好みし山水絶勝たる清涼寺に比して、参州に名を得たる

第一の名刹<sup>⑮</sup>なるべし。

鳳来寺にて

夜着

ひとつ

祈りだしたる

旅寝かな

はせを「芭蕉」

鳳来寺

惣門

① 一刀入れる度に三度礼拝する

② 【意識】

これから三河に出発する送爽鳩を送る

使者の任を受けて三河に赴任するあなたの前途を想像するに、旅路は東海の波の見える箱根の関へと続く。杜若川は冷たく春の芳しい草はまだないが、芙蓉（富士山）の峰は晴れた青空に白雲がたくさん浮かんでいることでしょう。笙の音で歓迎されていたい幾人の旅客が鳳来寺を訪れ、どんなお方が酒席で「魚麗」の歌を聴いたことでしょうか。あなたは各地の名跡をあまねく登臨されたようですが、高山小室（巖谷観音）での禅定の境地がいかなものか？

③ 神仏の分霊をお願い、迎えまつること。

④ 日照りと長雨

⑤ 神仏が一時姿を現す事

⑥ にわかにな。突然。

⑦ けわしい道

⑧ 聖徳太子

⑨ 律令制において、官司から天皇に対して意見を申し述べる事

⑩ 「尋」は左右の手を広げた長さ

⑪ 「咫」は、親指と中指を開いた長さ

⑫ かすかで、小さい

⑬ 驪（くろうま）。黒い馬

⑭ 天皇、貴人などの御病氣

⑮ 烟霞（えんか）。煙と霞（かすみ）

⑯ 聖者の死去

⑰ 草木が盛んに茂る

⑱ 由緒ある名高いお寺